別記第１号様式（第７関係）

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">附属機関又は
会議体の名称</td><td>味楽百貨店整備・活用検討委員会</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局（担当課）</td><td>文化デザイン課・文化観光課</td></tr>
<tr><td colspan="2">開　催　日　時</td><td>令和３年９月29日（水）　18時30分～20時00分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開　催　場　所</td><td>豊島区役所８階807・808会議室</td></tr>
<tr><td colspan="2">議　　題</td><td>（１）委員会設置の目的について
（２）味楽百貨店を活用した新たな文化施設について
（３）意見交換</td></tr>
<tr><td rowspan="4">公開の
可　否</td><td rowspan="2">会　　議</td><td>■公開　□非公開　□一部非公開　　傍聴人数　０人</td></tr>
<tr><td>非公開・一部非公開の場合は、その理由</td></tr>
<tr><td rowspan="2">会　議　録</td><td>■公開　□非公開　□一部非公開</td></tr>
<tr><td>非公開・一部非公開の場合は、その理由</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出席者</td><td>委　　員</td><td>足立委員、羽場副座長、小出委員、河原委員、一乃瀬委員、酒井委員、本多委員、大山委員、山内委員、田中委員、高際委員、秋山委員　計13名

欠席者　齊藤委員</td></tr>
<tr><td>事　務　局</td><td>文化商工部文化デザイン課
文化商工部文化観光課</td></tr>
</table>

審　議　経　過

【開会】
事務局：
　ただいまから第１回味楽百貨店整備・活用検討委員会を開催させて頂きます。本日はお忙しい中お集まり頂きまして本当に有難うございました。
　本日の進行は、マンガ・アニメ活用担当課長が務めさせていただきます。宜しくお願い致します。また、区の記録の関係上、写真撮影や録音をいたしますのでご了承頂きたいと思います。
　早速、開会の挨拶を高野区長よりお願いしたいと思います。

【区長挨拶】
高野区長：
　どうも皆様こんばんは。大変お忙しいなか、また遅い時間にお越し頂きまして本当に有難うございます。
　さて、トキワ荘もおかげさまで一周年を乗り越えました。一年間の来館者が５万人を超えるというコロナ禍の中での快挙ではないかと思っております。
　そしてまた新しい企画展が「トキワ荘と少女マンガ」というテーマでスタート致しました。水野先生だけではなく他の大作家さんも描かれた少女マンガが、一同にこのトキワ荘で展示されます。トキワ荘の価値というものが生まれると同時に、大作家の方々が協力をしてくれるというのは素晴らしいと思います。
　さて、今日の本題は味楽百貨店（みらくひゃっかてん）です。これをどういう形でトキワ荘のまちづくりに貢献できるか。皆さんにお力とお知恵をお借りすることで、このトキワ荘を中心とした南長崎の街の広がり、まちづくりができるのではないかと思っております。
　この味楽百貨店は戦後復興期から 1960 年代にかけて建設された一棟式マーケットの一つであり、このような建物が無くなっていく中で当時の風情そのものを残した大変貴重な豊島区の文化資源であります。
　この味楽百貨店を整備して開設する新たな文化施設が、区の育んできたマンガ・アニメの文化にふさわしいと考え、このような取り組みをしていくことになりました。
　現在はオーナーさんの共用部の工事が始まっており、工事も着々と進めているわけでございます。是非皆様方のお知恵とお力を借りて、味楽百貨店の整備・活用の検討ができればと思っております。
ぜひ本委員会の会長には A 委員をご指名させていただきたいと思いますけど宜しゅうございますか。
（異議なし）

全員の承諾を得て、どうぞ A 委員お願い致します。以上私から長くなりましたけどご挨拶とさせて頂きました。

事務局：
高野区長有難うございました。続きまして、座長を務めて頂きます、A 委員よりご挨拶をいただきたいと思います。

【座長挨拶】
A 委員：
皆さんこんばんは。この素晴らしい会議体の座長という大変な任務を仰せつかりましたけれど、この味楽百貨店というのは戦後昭和の地域の生活基盤の食材の第 1 号の販売店でした。地域の協働プロジェクトとして、賑やかな人通りで地域の生活者の皆さんの一つの大きな拠点であったということ、そしてトキワ荘との関連付けでここを活用できないかということで、高野区長に非常に強いお願いとご要望をずっと続けていました。ようやくここに実現の運びということにこぎつけていただけました。まず高野区長、本当にありがとうございました。
1 丁目から 6 丁目の七町会と 8 商店街の会長さんとの協働プロジェクト協議会で強い要望だったトキワ荘の再建、そしてただ建物を再現するのではなくて元あった形にできるだけ近い形という非常に虫の良いお願いでありました。ようやくミュージアムという形で実現し、ひと仕事終わってこれからどうすればいいのかということを考えていたところです。味楽百貨店という新たな素晴らしいテーマ、拠点を作っていただき、私たちもやりがいのある形で邁進していきたいと思っております。
この施設を地域の賑わいの立派な拠点に作り上げるように、これからこちらの委員の皆様のご協力を頂いて、実践していきたいと思います。
特に B 委員には副座長という形で私に代わって立派な代行役を務めていただきたいと思っておりますので、皆さんよろしければ是非ご賛同いただきたいと思います。
これからも一生懸命やっていきますので是非ご協力賜りたいと思います。宜しくお願い致します。簡単ではございますが一言ご挨拶ということで、有難うございました。

事務局：
A 委員有難うございました。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。
続きまして検討会議委員の皆様のご紹介をさせていただきたいと思います。

【(1)委員会設置の目的について】
それでは、さっそく議事に入りたいと思います。

議事に入る前に、会議録の作成と会議の公開について事務局の方から説明させていただきたいと思います。まず会議につきましては、原則公開となっております。
非公開によって運営すべき事情が生じた場合には、その都度公開させていただきたいと思います。次に、会議録につきましては作成したものを区のホームページ等で公開いたします。

会議録の作成方法につきましては従前の例にならいまして、実名公表ではなくA委員、B委員という表現で記載しまして、以後同一の委員は同じ表現で表すという方法で作成したいと思います。よろしくお願いいたします。

本日は皆様出席でございます。

では早速議事の方に入らせていただきます。

まず一つ目、委員会設置目的についてでございます。私の方から説明させていただきます。

参考資料１、味楽百貨店整備・活用検討委員会設置要綱でございます。

第１条及び第２条のところで設置の目的と所掌事項を記載しておりますので読み上げさせていただきます。

まず第一条、設置についてです。味楽百貨店を活用した新たな文化施設、以下、味楽百貨店と呼ばせて頂きます。開設にあたりまして整備・活用について検討するため、地域団体代表の皆様、関係者の皆様の参加のもとに味楽百貨店整備活用検討委員会を設置するものでございます。

つづいて、第２条、所掌事項でございます。検討委員会は以下にあげる事項について所掌を致します。一つ目、味楽百貨店の整備基本計画案の策定に関すること。
続きまして味楽百貨店の管理・運営に関すること。三つ目に味楽百貨店の事業展開に関すること。最後に、その他味楽百貨店の開設準備に関し必要な事項に関すること。こちらの方を、委員会の皆様で所掌していただきたいと思っております。

誠に略式で恐縮ですが、時間の関係もございますので第三条以下は割愛させていただきたいと思います。こちらについてはご不明な点がありましたら、後日事務局までご連絡頂きたいと思います。よろしいでしょうか。

では次に進ませていただきます。

議事の二番目、味楽百貨店を活用した新たな文化施設についてに入ります。こちらは、文化デザイン課長より説明をお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。

【(2)味楽百貨店を活用した新たな文化施設について】

文化デザイン課長：

文化デザイン課長でございます。よろしくお願いいたします。まず資料1-1を取り出しいただけますでしょうか。新たな文化施設の整備についてです。

表紙に、整備の目的、概要、スケジュールを記載しております。内側に所掌事項、計画の骨子素案が入っているという資料でございます。

資料 1-1、整備の目的ですけれども、去年 7 月にマンガ・アニメの文化継承の発信拠点、トキワ荘マンガミュージアムが整備されました。地域全体の回遊性の向上に向け、今皆様も一緒に取り組んでいるところです。

このような取り組みをさらに発展させまして、トキワ荘マンガミュージアムと連携して地域が一体となり、古き良き昭和時代、これまで育ててきたマンガ・アニメ文化を、次世代に継承することを目的といたしまして、味楽百貨店を文化施設として整備したいと考えております。

あとでご説明させて頂きますが、来年度は区制施行 90 周年に当たるため、一部、区制の歩みを体験できるような価値を考えていきたいとも思っております。

2 番目に、味楽百貨店の概要です。建築概要につきましては、表のとおりでございます。住所は南長崎 3-4-10、建設年月日は、昭和 20 年代の前半、建築基準法ができる前に建っていた建物と推定されます。一棟式で木造 2 階建て、敷地面積は 261.25 平米、床面積は 412.81 平米です。

3 番目、整備スケジュールです。本日の第一回目の検討委員会で整備の骨子をご説明し、ご意見を頂戴いたしまして、整備基本計画素案を作らせて頂きたいと考えております。

11 月から 12 月の上旬にかけて計画案を作って、区議会等にお示しできればと考えております。令和 4 年度に設計、内装工事、設置条例等を作り、施設のオープンは区制施行 90 周年の 11 月を考えております。

続いて骨子の素案をご説明させて頂きます。

1 の整備の基本方針でございます。先程お話をさせていただきましたが、古き良き昭和時代とこれまで育まれてきたマンガ・アニメ文化を次世代に継承するため、トキワ荘マンガミュージアムと連携して、地域が一体となって誰もが戦後の豊島区の街並みとマンガ・アニメ文化に触れることができる、そういう機会を創出できる施設にしたいと考えております。

2 の施設のコンセプトは 3 つになります。今の基本方針に沿って、昭和の雰囲気を感じられるミュージアム。そのために昭和 20 年代に建築された、当時の間取りや設備を活かした形で施設を作り、それから展示をおこなっていきたいと考えております。

また、トキワ荘マンガミュージアムと同じく、マンガ・アニメ文化をつくり、楽しむアミューズメント施設。こういった古き良き昭和の風景を感じられる施設の中で、マンガ・アニメ文化を楽しめるアミューズメント施設にしたいと考えております。一階には、民間施設としてマンガに関する施設も入りますのでそこと連携をしていきたいと考えております。

最後に地域との連携によるにぎわいの創出です。トキワ荘マンガミュージアム、味楽百貨店に入るマンガ施設、地域の文化団体と連携して、南長崎のにぎわいを創出するようにしていきたいと考えております。

3 の整備の方向性でございます。今、お話をさせて頂いたようなものを図にしており

ます。マンガ・アニメ資料の展示・公開、たくさんの方に来ていただいて誰もが快適に過ごせる空間。それから、地域の人々にも、当然来場者だけではなく、地域の皆様に親しまれる、交流の場になるような場所、そして歴史的建造物、この昭和 20 年代にできた貴重な建造物の雰囲気をしっかりと活かして、それでも安全な空間を作っていく。こういったものを整備の方向性として持ってきたいというふうに考えてございます。

4 のゾーニングイメージでございます。資料 1-2 を一緒にご覧いただければと思います。

一階、来場者入口を入ったところに民間マンガ施設、マンガピットという施設が入ります。後々、ご説明させて頂きたいと思いますが、奥の部屋は、マンガ・アニメ分野の展示室と仮置きさせて頂いております。

階段とエレベーターもあり、2 階に上がると、古き良きリアルトキワ荘と言っても過言ではないような空間が出現いたします。畳の 6 畳間、もしくは 4 畳半のアパートメントがあったものをきれいにし、郷土分野の展示等を行いたいと考えております。

道路に面した来場者入口に当たるところは、展示室 2 となっておりますが、多目的室として利用できるようにしたいと考えております。

最初にご説明させて頂きました、90 周年の企画展をやっていきたいと考えているのがこの展示室 2 です。

5 番の事業でございます。ここで行う事業の案としては、トキワ荘マンガミュージアムの連携施設として様々な展示等や昭和時代の展示なども行っていきたいと考えております。

それから教育普及事業、子どもから大人までが昭和時代、マンガ・アニメ文化に親しむことができる機会を創出するためのワークショップなどを開催していきたいと考えております。

また、情報発信事業として、施設の規模を高めるための情報発信なども行っていきたいと思います。様々な事業や展示等について、国内外に知らしめていきたいというふうに考えております。

最後に、回遊促進事業です。地域全体でも回遊やおもてなしの仕組みを構築し、その一部に味楽百貨店がなるようにしていきたいと考えております。

参考として、改修工事の様子を掲載しております。現在、A 工事としてオーナー様が工事を行っております。昭和 20 年代の建物でございますから、しっかりきれいにしているのが今の状況でございます。

畳の部屋では郷土分野の展示を行いたいとご説明いたしましたが、案としまして、資料 3-1 と資料 3-2 をご覧いただきたいと思います。どの部屋にどういうものを展示するかはこれからの検討になりますが、資料の 3-1、郷土史研究家の矢島勝昭様、南池袋近くの池袋記念館をやっておりまして、昭和の城北大空襲の絵など様々な作品をお描きになられております。

ジオラマ・造形作家の山本高樹様、トキワ荘マンガミュージアムのマンガラウンジに置いてあります、トキワ荘のジオラマを制作していただいたジオラマ作家さんです。昭和の豊島区の街並みをジオラマとして制作して頂き、展示室3・4・5に飾っていきたいと考えております。様々な昭和の文化などに触れて頂けるような展示をしていきたいと考えてございます。私からの説明は以上です。

事務局：
はい、有難うございます。続いて、1階のマンガ施設につきまして、J委員からご説明お願い致します。本日、中央にある、施設の模型をお持ちいただきました。

J委員：
委員に選んでいただきまして、大変ありがたいと思っております。先ほどご説明ありました、民間施設の事業者としまして、味楽百貨店でマンガに関する施設の開設を進めております。そちらの資料が、現状では仮の案でありますけれども、資料2に基づきまして、現状の民間施設の状況をご説明させて頂きます。
目的としましては、トキワ荘マンガミュージアムの来場者に周辺エリアを回遊して頂き、エリア全体の価値を高めたいと思います。また、伝統から現在までをつなぐマンガ文化を学べる拠点にするということを考えております。そして、若手作家の発表の場にもしたいという思いがあります。
また、子供から大人までマンガ文化を多様な側面から、そして気軽に触れることができる環境を作り、次世代へと繋いでいくという目的があります。
加えて、マンガ・アニメにはファンの方が多いため、複製原画やグッズ、新刊コミックスを購入できるようにし、ミュージアムや地域とも連動をして、マンガファンの購入欲を満たすということも考えております。
結果的には、トキワ荘のエリアに全国から、トキワ荘に興味がある方に加え、マンガファン、マンガで学びたい親子、そしてマンガ家の卵が集まってくるそんな場所にしていきたいと考えております。
そしてマンガを学びマンガで学ぶ、みんなの新たな発見がある文化発信拠点として民間施設を整備できればと思っています。
具体的には次のページからお話しします。
概要は軽くになりますが、味楽百貨店の趣を残しながら改装をし、豊島区のエリアとも連動しながら、名作から最新に至るマンガ文化に触れてマンガを学べる、子どもから大人までが楽しめる拠点を、2022年3月にオープンする段取りで進めております。
施設の機能としましては、書店ギャラリー機能を一つ設けております。新刊コミックス、グッズ、複製原画の展示販売を行う、「マンガナイトBOOKS・Eギャラリー(仮)」として展開させて頂ければと思っております。

こちらは、私の方で東京都文京区に構えているギャラリーがありまして、それを移転し改めて形にさせてもらおうと思っています。

文京区の店舗は、コロナ禍で開けないことも多かったのですが、平時には1か月単位でマンガ家さんの原画展を行っておりました。これは月1で年間10本程度行っており、10月から緊急事態宣言が明けるため、原画展を再開しようとしております。

そして二つ目の機能は、読書空間です。こちらは「マンガピットE」というタイトルをつけております。一般社団法人マンガナイトで日本財団の助成事業として、マンガと学び促進事業を行っております。こちらのプロジェクトが、2015年以降7年ほど日本財団主催で進めた、マンガで学ぶという事業を私が企画で携わっており、その3年間の日本財団主催事業後、私が引き継ぎ、現在は私の法人が主催、日本財団が助成という形で進めております。

トキワ荘にいらっしゃったマンガ家さんの作品も含め、学べるマンガを選び、それを里中満智子先生に委員長になって頂いて選んでおります。それを全国の高校や図書館など700カ所に展開しております。その拠点をマンガピットEと考えております。

次の展示スペースとしての機能としましては、「デジタルEギャラリー(仮)」と書いておりますが、現在のマンガ家さんはデジタル作画、いわゆる筆ではなくデジタルで製作する方が増えているので、そのような作家さんのデジタル原画にも対応できるようなギャラリースペースと思っております。

次ページ、エリアとしましては、入口右手に事務所があり、その隣に書店ギャラリーを設けております。展示スペースは廊下面に設け、読書空間が左手入った空間にあるというイメージになっております。

次のページ、「マンガナイトBOOKS・Eギャラリー」のエリア紹介です。
まだイメージですけれども、常時オープンで、マンガの原画が飾られていて、新刊書籍やマンガに関するグッズを買えるようなギャラリーです。こちらも現状の文京区のマンガナイトブックスと同じように、基本的には月1で様々な作家さんの原画が見られるような展開を想定しております。

次のページになります。こちらは「マンガピットE」という施設になります。
“Education”と”Entertainment”の造語である”Manga Edutainment”の“E”を付けたのですが、楽しみながら学ぶということで日本財団と進めている活動になります。こちらのイメージですが、子どもたちや若者、大人が、上の段のではくつろぎながらマンガを読める、下の段だと押し入れに入ったような気分でマンガを読めるスペースとして、約25名入れる空間として進めております。資料の左下の写真は、立川マンガパークという立川市の旧市庁舎を利用した、マンガが読める施設です。年間 10 万人が来場する施設なのですが、オープニングから企画で携わっておりまして、その施設に似た機能をこちらの空間では展開する予定になっております。

次のページに移ります。本棚空間ですけれども、約7,000から1万冊程度のマンガを

置くようになっています。こちらは「これも学習マンガだ」というプロジェクトで選んでおります。学びに活きるようなマンガに加え、それ以外の人気作品も一部置きますが、基本的には学習マンガや「マンガで学べる」を切り口に作品を選んで行って展開するようなことを想定しております。

金額や料金体系は検討中ですが、立川マンガパークの利用料が 400 円、お子様は 200 円なので、同じような価格帯で計画しております。

次のページは、ワークショップの開催やレンタルができるスペースも一部設けております。

次ページは、1 階マンガピット E エントランスとなっております。入口には自動販売機、イスなどを設置して、休憩できるスペースを設けております。

最後のページになります。最近主流になっているデジタル作画のマンガ家さんの原画を展示できるスペースにしようと思っております。

デジタルモニターを壁の内側に埋め込み、額装することで絵画のように見えるという仕組みで計画しております。

このように、民間施設には、原画展のファンの方や親子連れなどが、マンガを学びという側面から楽しんで読める空間を用意しており、にぎわいの創出になればと思っております。

私は、東アジア文化都市 2019 豊島のころからマンガ入門に関わっておりまして、南長崎エリアにマンガミュージアムができることも重要ですが、街全体が広域ミュージアムとして盛り上げていくためには、いくつかの拠点があり、そこを回遊していただく、商店街や街の皆様との交流で盛り上がっていくということが重要と思っておりました。そのため、このエリアに移転することを決意し、計画を進めているところでございます。私からの説明は以上になります。

事務局：

有難うございます。では、味楽百貨店を活用した新たな文化施設、それから一階のマンガ・アニメ施設の説明につきましては以上となります。

後程、委員の皆様からご意見を頂きたいと思いますが、ここまでの説明で不明な点等ございましたらいただければと思います。いかがでしょうか。

【(3)意見交換】

C 委員：

資料 1-1 の味楽百貨店の概要ですが、建設年が昭和 20 年代前半になっています。私が独自に調査したところ、昭和 28 年建設、トキワ荘とほぼ同年の建物だと味楽百貨店に入ってた肉屋さんから伺いました。昭和 20 年代前半という建設年はどのような根拠があるのでしょうか。

文化デザイン課長：
　登記と建築基準法の施行時期が根拠となっております。昭和 20 年代後半の住宅地図に味楽百貨店がありました。登記を何度も行っているため、最初の登記が分からないのですが、昭和 25 年の建築基準法が施行する以前に味楽百貨店ができたのではないかと建築に確認したところ、定かではないが昭和 20 年代、25 年より前ではないかということでこちらに記載させていただきました。

C 委員：
　最初のご説明で 1960 年の建物という発言もあったと思うので、随分ずれがあるのでそこはしっかり記録して頂ければと思います。

文化デザイン課長：
　60 年代までにたくさん建築された中の一つという説明でございました。

施設整備担当部長：
　昭和 20 年代前半に撮影された航空写真に味楽百貨店が映っていたのですが、その前の写真にはなかったため昭和 20 年前半となっています。昭和 28 年建設というお話は、肉屋さんの開店はその頃で建物としては前からあったのではという推定の元で記載させて頂いた次第でございます。

事務局：
　質問も含め、副座長の方からご意見お願い致します。

B 委員：
　今日初めて詳細をお聞きして、大変胸が踊ります。我々も今取り組んでるのが、地域とトキワ荘マンガミュージアムとの密着度、これをどう盛り上げていくかということです。味楽百貨店の建築現場を拝見したのですが、メインの柱、構造柱を残して建ってるというのは、建物としても大変貴重です。昭和レトロにふさわしいような汚しを入れつつも、構造柱を残して頂きたいと思います。まちづくりを推進してる我々にとっては、非常に貴重な建物だと思いますので、これを大いに活用させていただきたいと思います。以上でございます。

C 委員：
　今、B 委員がおっしゃったように、本当に貴重な建物です。ずいぶん前に外壁の改装を行っており、味楽百貨店のあの看板が一回外されたことがありました。看板そのものがすごい味わいがあるので、外してしまうのかと驚きました。持ち主にたまたまお会い

することができたのでお聞きしたら、看板はもちろんまたつけるんだよと言われ、安心しました。この昭和レトロの雰囲気を残したまま活用していただきたいなと思っています。今、J 委員から色々お話しいただいて、一番気になったのが入口の所です。資料の写真で言うと、シャッターが下りている左側と右側の白い壁のところですが、図面上では窓が付いているだけです。間口は建物内のワクワク感を醸し出すためには非常に重要なパーツだと思うので、ここも昭和レトロな感じにしていただけたら有難いです。

トキワ荘の先生方に特化した本はマンガステーションやふるいちトキワ荘通り店にもありますが、現代作家さんの作品や流行りの作品が読めるところがないので、J 委員の施設での展開は非常にありがたいと思っております。実はトキワ荘通りお休み処が 7 年前にできた時に、隣にいらっしゃる D 委員と一緒に、二軒隣の現在のマンガステーションが空き店舗だったので、そこを活用させていただいて、マンガの古書に特化したお店を期間限定で約一か月やりました。神田の夢野書店というマンガの古本の専門店など、マンガが得意な 7 店舗に入っていただきました。すごい品揃えで、東京新聞にも取り上げられました。当時のお休み処の運営スタッフさんもそこでマンガを買っていて、ファンの人は必ず寄っていました。そういった要素も味楽百貨店の中にあったらいいと思います。外観の昭和レトロに合わせた品揃えというのも必要ではないかと思います。

あともう一つは、飲食は色々条件的に厳しいかもしれないですが、昭和の雰囲気といえば駄菓子だと思います。駄菓子屋さんが今の商店街には、きちんと展開してるところはないと思うので、雑司が谷の鬼子母神の境内にある感じのものが一つあると、街に賑わいができるのではないかとも思っています。

協議会の執行部で話し合いでもありましたが、展示というと待ちの、ウエイティングのイメージになってしまいます。ですが、１階奥の展示室は攻めるスペースだと思います。先ほどおっしゃってたワークショップやマンガ家のサイン本販売会などイベントを定期的にやるようなスペースにしてきたいなと思ってます。

J 委員：

一部ご回答させていただきます。入口のファサードの部分は現状 A 工事でお話聞いた範囲だと、当初の外観を意識しているそうで、あまり広告を出すのではなく、当時の雰囲気のままとお聞きしています。模型の間口のサイズが、ドアのサイズになっており、現状だとトキワ荘のようなあしらいが付くとお聞きしています。中に入る民間事業者としましては、看板をどうすればいいのかと思ってはいるのですが、袖看板など、基本的にはこの雰囲気を生かしながらとは思っています。変なことはせず、かつお客様から素通りされないように展開しようと思っております。また、マンガピット E の空間につきましても、床も天井も凄く当時のようで良い雰囲気なので、何かそこら辺を活かしながら、入り込める楽しさは追及しようと思っております。

事務局：
　ありがとうございます。ではD委員、お願い致します。

D委員：
　ここまでの計画の段取りを進めていただきましてありがとうございます。地域に新しい文化施設がさらに加わって、エリアの魅力が高まることに本当に感謝申し上げたいところです。J 委員からご説明を頂きましたが、マンガが学習の素材であるという事を訴える施設が入ることで、子どもたちにもマンガの見方やマンガから学ぶものが伝わるという事は、とても良いと思っています。
　それから、ミュージアムは展示が中心ですけれども、コロナ禍以前は「モノからコトへ」と言っていました。体験型はやっぱり魅力という話がありましたけど、あのエリアにも体験するような施設が欲しいなと前から思っていました。そういう意味ではこの 1 階の展示室1や2階の展示室2で、ワークショップのようなものができたり、ものづくりであったり、なにか体験してみたいというようなことがあった方がいいのではないかと思っています。
　特に展示室2は窓があり、窓からの通りの眺めがすごくいいです。昭和の街が自分のものになったような、観光気分が味わえるような景色が見られます。そのうち商店街が盛り上がってくると、窓から見る風景もその魅力の一つになるんじゃないかなと感じています。
　展示室1のところは確かに窓がなくて困りますが、先ほど申し上げたような動的なことができればいいなと思っています。
　地元に伝統工芸保存会の会長がいらっしゃるので、時々その伝統工芸の技を展開できたらいいという話も聞いたことがあります。
　それからこの運営についても、地元で関わって、ワークショップやものづくりの先生と連携しながら、マンガファン以外のいろいろな方に来ていただいて、マンガの良さを知っていただくということもできると考えています。

事務局：
　ありがとうございます。続いて、E委員、お願い致します。

E委員：
　私からは区議会の立場から、言わせて頂きたいです。本当にいろんな形で地元にトキワ荘マンガミュージアムも含め、お休み処、ステーションそれからモニュメント関係といろいろとやって頂いて、本当に地元として喜んでいるところです。また今回この味楽百貨店を生まれ変わらせて、また一つの拠点とするという話になってきます。ただそこには改修改装の予算、それから今後の維持費、これをどう賄っていくかがやはり重要だ

と思います。議会関係でも予算を取るには、それなりに皆さんを説得し、理解していただくような形を取りませんと、大変なことになってしまいます。

組み立てたはいいけれども、予算がつかないと反対されたらアウトになってしまいます。今もいろいろな他地域から南長崎はいいな、トキワ荘があっていいなという声が聞こえてきます。羨ましく思っていただけるだけならいいのですが、自分の地域には何もないから、よそにばかり予算を持っていかれてるというような、妬みまで持たれてしまうと地元の議員として大変になりますので、その辺りをしっかりと見ていただきいと思います。街を盛り上げるためには今ある施設と同じような施設を作ってはいけないと思います。それぞれに特徴のある、ここに来ればこれがある、あっち行けばまた違うものがある、それが南長崎地域に遊びに来ていただける方々に対しての一番のアピールになるのではないかなと思っています。その辺りもこの検討委員会の中でしっかりと皆さんと議論をしながら、そして議会で、それを堂々と言えるように、私もしっかり頑張ってまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

事務局：

ありがとうございます。K 委員、お願い致します。

K 委員：

よろしくお願いします。普段はデザインとアートの関連で、街を盛り上げるお手伝いをしています。それとは別に、池袋西口にございます、創形美術学校というアートとデザイン、それからマンガ・アニメ、あまり人数は多くはないのですが、アニメーション＆コミック専攻もありまして、そこで講師兼地域連携のプロジェクトの担当をしております。今回とても素敵な施設になるなと、とてもワクワクしています。

私がご協力できるとするとその美術学校で毎年、プロのマンガ家を目指す学生が一人二人おります。今 3 年生には実際に講談社に行って、編集がついている学生もおります。豊島区に在住されている、かなつ久美先生という『OL ヴィジュアル系』というマンガを描かれた先生がいらっしゃるのですが、一緒に学校の授業でトークショーなんかもやらせていただきました。普段学生が編集さんにダメ出しをもらう機会はありますが、本当のプロの先生、マンガ家さんにダメ出しを受ける機会はなかなかないです。なので例えばこういう施設でそういうことができたら、とても素敵だと思いました。なので先程 D 委員も仰ってましたけれども、この展示室 1 でいろんなポジティブな企画が沢山できたら、この施設含めてとてもよいのではないかと思っています。

あとは時代の流れで行くと、本当に若い子にはこの昭和レトロというのが人気でブームなので、インスタも含めてみんな若い子達がたくさん写真をあげています。タイミングもすごく良いと思いました。先程 C 委員から、昭和レトロ感のある食べ物という話がありましたが、僕も賛成です。例えば自動販売機程度でも昭和レトロな飲み物が買えた

りすると施設のブランディングとしてまた付加価値出てくるのではないかと思いました。以上です。

事務局：
　ありがとうございます。ではI委員お願い致します。

I委員：
　コロナの前あたりに、徳光和夫さんの「路線バスで寄り道の旅」という番組が取材で南長崎に来られました。その撮影の後に徳光さんと雑談をさせていただきまして、味楽百貨店のお話が出ました。徳光さんのおっしゃるには、お母さんのパーマネントをかける時についていったことがあるそうです。徳光さんが昭和14年生まれですが、「トキワ荘は僕がいた時になかった」とおっしゃっていたので、その辺を計算すると味楽百貨店がどのぐらいに建てられたのかがわかると思います。昭和 27 年にトキワ荘が建っていますので、C委員がおっしゃったように、トキワ荘と味楽百貨店が同じ年代に建てられたのかどうかについては調べていただければなと思います。
　後、私が 18 歳の頃に味楽百貨店の 2 階に知り合いが下宿していたので、少しお邪魔したことありました。そのときは一番奥の流しの近くの三畳一間の狭い場所であり、2 階は下宿屋のように小さなアパートがかなり入ってたのかなと記憶しています。雑談で申し訳ありませんが失礼致します。

事務局：
　パーマネント屋の記録等はあるのでしょうか。

施設整備担当部長：
　美容室のような風情が残っているのは私も見てますので、おそらくあったのではないかと思います。

G委員：
　名前は忘れてしまいましたが、パーマ屋さんはありました。
　民間施設の話になりますが、マンガピットの 7000 冊は、マンガステーションとまた違う本が使われるのですか？　また、ここだけ入場料をとるのですか？

J委員：
　民間施設なので、入場料を取る形になります。

G委員：

さきほどC委員が言われた駄菓子屋は、運営に人を置かなくてはいけないと思いますが、駄菓子を置けば子どもが来ると思いますし、いいと思います。

事務局：
有難うございます。H委員、いかがでしょうか。

H委員：
私は味楽百貨店から徒歩4分ぐらいの所に住んでおりまして、あのお肉屋さんも利用していました。閉店してしまいショックだったのですが、その陰でこのようなことが進んでいると、最近知りましてとても感激しております。
ただ一つ心配なのは、自転車で来る子ども達も多いので、その自転車置き場をどうするのかをお伺いしたいなと思います。店舗があったときは、建物の中に自転車停めてお買い物をしていました。以上です。

事務局：
検討課題かと思っております。トキワ荘公園にも自転車置き場はありますが、他に代替地があれば検討させて頂きたいと思います。
現状では、トキワ荘マンガミュージアムもですが、公共交通機関で来ていただくか、近所の方に来ていただく場合には、公園の駐輪場を利用いただきたいと思います。

高野区長：
自転車が非常に危ないですね。どこか土地を借りて、自転車置き場をトキワ荘通り全体に、一カ所か二か所作るべき。そこで管理できるようにして、安心してこの街を探索してもらえると良いと思います。
ちょうど味楽百貨店があることによって、一つのポイントができて、ちょっと見て楽しまれて、お休み処に行っていただく、そういう形の中で、歩いて散策して楽しめる商店街であれば一番いいので、確かに自転車置き場は必要だと思います。

C委員：
児童遊園側のバックヤードを利用できれば良いと思います。

高野区長：
私が思うには、外からたくさんの人に来てもらうには、自転車で来ても安心して置き場がありますよ、と商店街全体で言えることだと思います。商店街で駐輪場を用意してあげるというのも、本当に必要なことだと思います。

G 委員：
　ミュージアムに置いて、歩いて回ってくださいとお願いしてもよいと思います。

高野区長：
　それが一番理想的ですね。今後の課題として、今日の H 委員の提案は、真剣に考えなきゃいけないことだと思います。一方で味楽百貨店の建物内に作ることは困難だとも思います。
　この課題を解消して、区内の方に、ぜひ自転車で来てくださいと言えるようになれば、この地域の一つの売りになるかもしれません。

事務局：
F 委員、お願い致します。

F 委員：
　周囲を回ってもらうというコンセプトが今のトキワ荘の広域ミュージアムに生きていくと思います。
　これまでの話で、自転車置き場の件は良い話だと思うので、頑張って欲しいです。
　私から、検討して頂きたい点が、骨子素案 2-2 の「マンガ・アニメ文化を作り楽しむアミューズメント施設」の“アミューズメント”という言葉が気になります。先ほど J 委員からお話しのあった Edutainment という表現を借りて、味楽百貨店全体で統一させた方がいいのではないかと思いました。
　あとは、先ほど C 委員や D 委員がおっしゃられた通りで、展示にすると「静的」な施設になってしまうというのは私も合意しているところです。そのために何が必要なのかと考えると、必要な電圧やコンセントの数など電気関係の設備をある程度整えていただきたいと思います。インターネットは LAN ケーブルで回せるようにしていただきたいです。例えば、アニメーションの展示や絵と原画を展示しなくても、モニターがあれば流動的に展示ができると思います。
　また、モニターがホワイトボードの代わりになるなど、使い方に幅があると良いと思います。あとは、施設の 2 階の窓から街を眺めたいなという気持ちと、1 階の奥から公園に出られると、違った意味で回遊性、エリア感が出るのかなと考えています。街の中にある施設ならではの人の動線や、ある意味、その通りから入ってくる人だけではなく、裏から入ってくる人もいると、オープンで使い勝手の良い、他のミュージアムやお休み処と違った意味で補完できるような建物になると思います。以上です。

事務局：
　有難うございます。では、恐縮ですが、専門的見地から N 委員、区史編さん担当から

お話を頂きたいと思います。

N 委員：
　トキワ荘通りには、トキワ荘マンガミュージアムがあり、トキワ荘マンガステーションがあり、トキワ荘通りお休み処があり、そこへさらに味楽百貨店を置いて、人の流れを活発にしていくというストーリーかと思います。味楽百貨店の 2 階、「静的」なというお話があった部分を私は担当することになると思います。そういう静的な、受身的な部分でどう集客を図れるかという非常にハードルが高い部分ではあるのですけれども、この委員会で皆さんから出されるご意見を伺いながら、なるべく中身を反映できるような形で、発想を豊かにして展示に関しても、幅広く考えていきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

事務局：
　続いて、区史編さん担当からお願い致します。

区史編さん担当：
　区史編さん担当で主に平成時代の編さんをしております。平成になってデジタル化が進み、昭和の頃のアナログの記録とか資料がなくなっていることに危機感を覚えております。誰の目にも見える形で、触れたり体験したりする形で、昭和の時代の生活空間を再現する事は令和を生きる子どもたちにとって良い教材になると思いますし、意義があると思っています。
　先ほどからお話しを聞いていて、2 階の使い方がとても難しそうだなと思います。1 階ではトキワ荘マンガミュージアムとの連携や、またマンガナイトさんの企画などいろんなアイデアが皆さんも出やすいですが、2 階の活用をしっかり考えていく必要があるなと思います。ただの展示ではなく、ここで昭和の生活を体験できる仕掛けのある展示を考えた方がいいと思いました。以上です。

事務局：
　A 委員、最後に何かございますか。

A 委員：
　多くの住民の方々が親しみのあるマンガ・アニメという一つの題材を活用して、心の豊かさを求める街になるために、この拠点を活かせればと思います。
　協働プロジェクトとしては、若い世代の方にイベントのスタッフとして参加してもらうことのほかに、地域の空き家対策の一つとして先ほどの駐輪場の問題があります。トキワ荘通り沿いの空き家を活用できないかと思う一方、10m、20m入った住宅地の 80

平米 100 平米ぐらいの空き家を駐輪場として活用するのも良いと思います。従って、ミュージアムと味楽百貨店、それからお休み処、マンガステーションとの間に三つほど駐輪場があれば足りるのではと思いました。

あの地域に 86 年住んでいる私としては、多少役割が果たせるかなという気がいたしました。何よりも今日、皆さんの話を聞き、いろんな角度からこの場所を、拠点というものを生かしていこうという姿勢を感じました。

地域の方々がもっと関心を持って、こうした素晴らしい施設に参画して頂けるようにできないかなと常日頃考えています。そのために協働プロジェクトの組織体制を継続的に続けるためにどのような法人体制を、組織体制を作っていけばいいのかなと考えています。

事務局：

最後に、M 委員からお願い致します。

M 委員：

感想も含めて最後に一言申し上げたいと思います。私も今、皆さんの話を聞いてすごいワクワクしてまいりました。一つの建物内での現代と昭和レトロのコラボレーションに発展の可能性を感じます。それから、C 委員、D 委員がおっしゃっていた、体験型の施設にできればよいというのは私もそう思います。マンガから楽しく学んだことがきっかけとなって、動的なものに結びつけて行けるとそれもまたコラボかなと思います。

一方で、スケジュールお示しをさせていただきましたが、第 2 回は来月の半ばで、整備基本計画素案を提示する段階となって参ります。事務局の方では今日はご説明した内容に加え、いろいろ意見いただいた駐輪場のことも含め、それを一旦預からせていただきまして、また良い形で素案に反映し、お示しできたらと思います。

事務局：

これで終わらせて頂きたいと思います。ただいま、M 委員からありましたように、ご意見等ありましたら FAX やメールでいただきたいと思います。また次回の日程等、決まりましたらご連絡させて頂きます。宜しくお願い致します。

会　議　の　結　果	
提出された資料等	
そ　の　他	【資料】 （資料１－１）新たな文化施設の整備について （資料１－２）新たな文化施設見取り図 （資料２）マンガ・アニメ民間施設について （資料３－１）郷土史研究家 矢島勝昭氏プロフィール （資料３―２）ジオラマ作家・造形作家 山本高樹氏 プロフィール 【参考資料】 （参考資料１）味楽百貨店整備・検討委員会設置要綱 （参考資料２）味楽百貨店整備・検討委員会委員名簿 （参考資料３）トキワ荘マンガミュージアム 来館実績